

講義名	研究演習				
講義コード	15420	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 月曜日 5時限
担当教員	仲間 瑞樹			サンパリング・コード	SEM350
学部・学科		演習分野			
経済学部（経済学科・経済情報学科）		ミクロ・マクロ経済学、日本経済、財政、公共経済分野			
概要説明					
<p>この研究演習の目的ですが、「現在、大学で勉強している様々な知識を、どのように活用し、様々な経済問題の解決に利用できるか」をさらに実感してもらうことです。</p> <p>そのために、やり方は古いですが、下で指定したテキストを読み、受講生（2人1組あるいは1人で）に発表してもらいます。</p> <p>将来ビジネスパーソンとなる皆さんにとって、ビジネスを進める、あるいは新聞、雑誌、各種ニュースを確認するとき、経済学の知識を活用して考えることは、問題点をより明確にし、問題の解決に至ることができます。そのためのトレーニングを、この研究演習で引き続き行います。</p> <p>具体的には、以下の方法で研究演習を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたテキストの内容を説明 ・テキストの内容について、発表者自身が疑問に思った事柄を説明 ・発表者以外の受講者は、発表者に対して必ず1人1回以上質問、意見を述べる ・発表者は発表内容に基づいたグループディスカッションのテーマを与え、グループディスカッションをする。各グループはディスカッションの内容を全体に報告。 <p>この研究演習で身につけた知識、そして経済学の考え方を経済・社会・経営問題に適用する力を研究演習、卒業論文執筆等で活用してもらいます。所属学生の進路も考慮しながらになりますが、現時点では下のように計画しています。</p> <p>4年生になったら、皆さんが2年生、3年生にかけて学んだ事柄、身につけた力を利用して、卒業論文（あるいは卒業レポート形式）つまり成果物を作成、提出してもらいます。テーマですが、各自興味のある日本あるいは世界の経済・社会・経営問題を1つ選び、選んだテーマに対して経済学の考え方を適用して論じてもらいます。扱う問題点を明確に示し、その問題点を経済学の考え方を活用して説明する。そして問題点の解決方法を提示してもらいます。</p> <p>テキスト 河野隆太郎「日本経済の死角」ちくま新書</p> <p>第1回目 研究演習の説明、教員がテキストの概要を説明</p> <p>第2回目 テキスト1章の発表</p> <p>第3回目 テキスト1章の発表</p> <p>第4回目 テキスト2章の発表</p> <p>第5回目 テキスト2章の発表</p> <p>第6回目 テキスト3章の発表</p> <p>第7回目 テキスト3章の発表</p> <p>第8回目 テキスト4章の発表</p>					
主な卒業論文のタイトル					
4年生の学生がいません。そのため卒業論文の提出もないため、卒業論文のタイトルの紹介ができません。					
教員からの要望					
<p>いろんなタイプの経済学部の皆さんを歓迎します。例えば以下のようなタイプの人を歓迎します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の経済学部で勉強したこと（していること）を、さらに深めたい ・現在の日本や世界の経済問題、新聞記事を、大学で勉強した内容を利用して考えたい人 					
選考方法					
<p>現在、研究演習の所属学生がいません。</p> <p>私の研究演習の履修した後に、引き続きをこの研究演習を希望する人で問い合わせ事項がある場合、メールで問い合わせてください。</p>					

評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席必ず確認します。無断の欠席回数が5回に達した時点で、不合格とします。 ・発表と質問（評価割合 50%）自身が発表に割り当てられた日に無断欠席した場合、不合格対象者として扱います。 <p>発表内容についての評価事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定されたテキストをしっかりと読み、発表をしているか否か。 ・発表の際、自身の意見や疑問を必ず述べているか否か。 ・発表内容に関連する話題を自身で探し出し、提示できているか否か。 ・発表内容に対する質問、意見を、毎回の演習の中で1回以上述べているか。 	
教員英字氏名	研究室
Mizuki Nakama	研究棟 6階 2604
最終学歴	
大阪大学大学院経済学研究科博士課程後期 中途退学	
学位	
博士（経済学）	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 ミクロ経済学・公共経済論を中心に研究をしています。例えば以下のようなトピックを研究しています。 世代重複モデルを利用し、政府の経済活動（課税、公的年金、国債発行など）が経済もたらす影響を分析しています。 個人が子や親に与える遺産、贈与が経済にもたらす影響を分析しています。 資産バブル、土地が経済もたらす影響を分析しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究業績（以下では3点のみの紹介にとどめます） 本間正明・岩本康志著者代表（2019）『財政論』 培風館 以下の5章分を執筆 第2章「政府と市場の役割」 第3章「公共財の理論」 第9章「国債と年金」 第10章「人口の高齢化と少子化」 第11章「社会資本と人的資本」 	
趣味・特技	
バイク ジョギング	
所属	
経済学部経済学科	
所属学会	
日本経済学会 日本財政学会 日本経済政策学会	
専門分野	
ミクロ経済学・公共経済論・財政学	
担当科目	
<p>（学部担当科目） ミクロ経済学 公共経済論 経済学入門 教養特講（日本経済の課題） 専門基礎演習</p>	
備考	
<p>将来、民間企業だけではなく、公務員を希望されている人も歓迎します。</p> <p>一部の公務員採用試験で課される試験科目（ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学）、その他、経済数学も含めて、リクエストに応じて、わからない箇所を解説することもできます。</p>	
実務経験の有無及び活用	
実務経験 無し	